

「共感転職」意識調査

7割以上の方が、転職活動時に企業と自分の価値観が合うかを確認。

— 『エン転職コンサルタント』ユーザーアンケート集計結果 —

人材採用・入社後活躍のエン・ジャパン株式会社（本社:東京都新宿区、代表取締役社長:鈴木孝二）が運営する人材紹介会社集合サイト『エン転職コンサルタント』（<http://consultant.en-japan.com/>）上でサイト利用者811名を対象に「共感転職（仕事における価値観）」についてアンケート調査を行いました。以下、概要をご報告します。

■ 調査結果概要

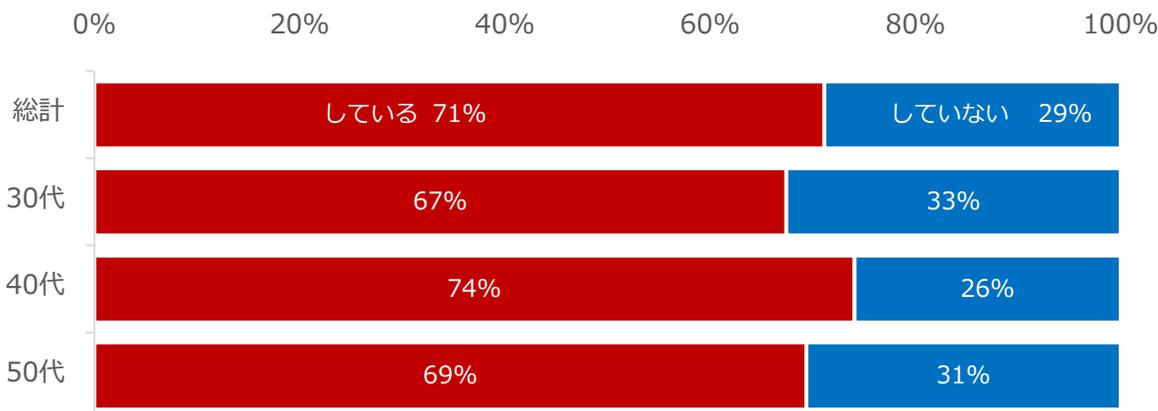
転職先企業を選ぶ軸は様々ありますが、自分と同じ価値観（理念やビジョン）を持つメンバーと働くことを基準に職場を選ぶ「共感転職」に注目が集まっています。自らの価値観を軸に企業を選ぶことで、双方の目指す方向性にズレが生じにくく、転職時のミスマッチを減らすことにつながるためです。そこで、今回は30歳以上の方に「共感転職」について伺いました。

- ★ 7割以上の方が、転職活動時に企業と自分の価値観が合うかを確認。確認方法は面接官との会話から。
- ★ 転職先を選ぶ際に最も重視する価値観は「社風・職場の雰囲気」。
- ★ 同僚や上司と価値観の相違が原因で失敗した経験のある方は半数以上。
- ★ 年代が上がるにつれ価値観の相違が原因のトラブルを未然に防ぐ方法として、日常のコミュニケーションを重視。

■ 調査結果詳細

1：71%の方が、転職活動の際に企業と自分の価値観が合うかを確認している。（図1、図2）

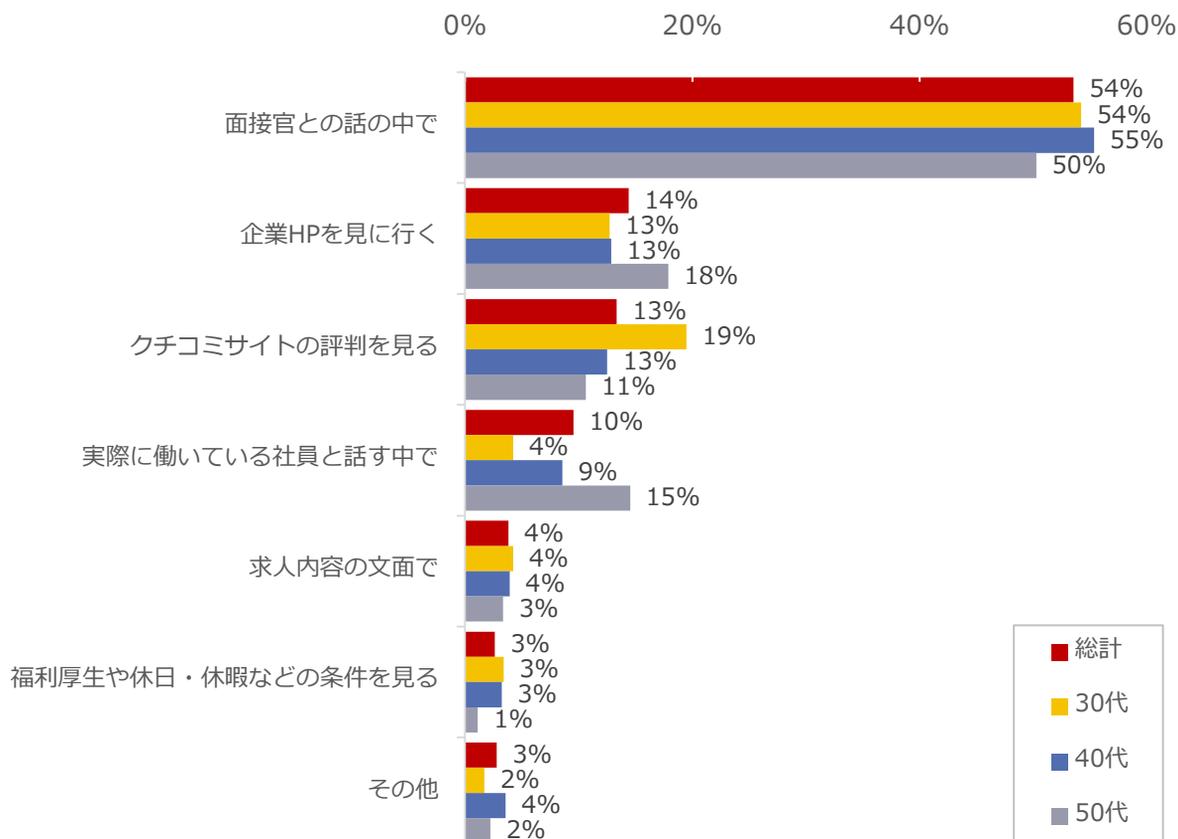
【図1】 転職活動の際に、企業とご自身の価値観が合うかを確認していますか？



30歳以上の方に、「転職活動の際に、企業とご自身の価値観が合うかを確認していますか」と伺ったとこと、約7割の方が確認していると回答。給与や待遇などの表面的な部分ではなく、自らの価値観を軸に企業を見ることで、双方の目指す方向にズレが生じにくくなるため確認が必要と考える方が多いようです。確認していると回答した方に「価値観の確認方法」を聞いたところ、「面接官との話の中で」（54%）と回答した方が最多となりました。多くの方が初めて企業の社員と接することとなる面接の場面。面接官の話す言葉や雰囲気から、その企業の持つ価値観を確認しているようです。そのため、面接官にもその企業の価値観を語れるようになっていることが求められます。

年代別でみると、30代は「クチコミサイトの評判を見る」（19%、40代：13%、50代：11%）と回答した方の割合が高く、他の年代よりも他者評価を参考にしていることが明らかに。また、「実際に働いている社員と話す中で」（30代：4%、40代：9%、50代：15%）は、年代があがるにつれポイントが高くなっています。年とともに、面接という限られた場では見えにくい、一緒に働くこととなる社員の価値観を重視する傾向にあるようです。

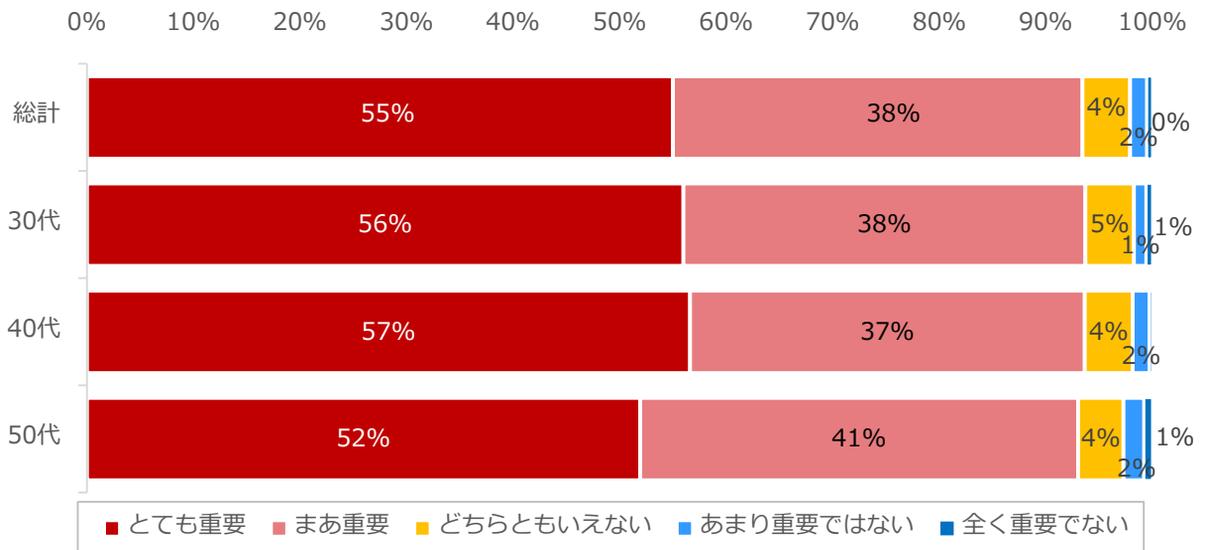
【図2】（図1で確認していると回答した方）転職先企業と実際に働いている社員の方の価値観をどのように確認していますか？



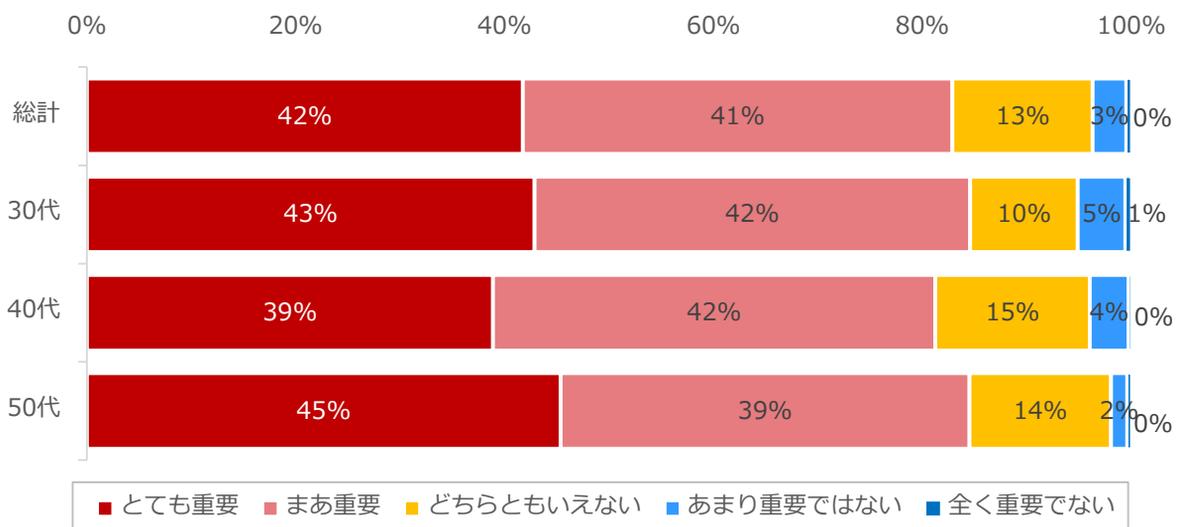
2：転職先を選ぶ際に最も重視する価値観は「社風・職場の雰囲気」。(図3、図4、図5)

転職先を選ぶ際に重視する価値観を「社風・職場の雰囲気」「一緒に働く人の価値観」「企業理念」の3つに分類し、これらをもとに転職先を選ぶことの重要性について伺いました。結果としては「社風・職場の雰囲気」(93%)を重要(「とても重要」と「まあ重要」の合算)と回答した方が最多となり、次いで「一緒に働く人の価値観」(83%)、「企業理念」(74%)となりました。すべての項目に対して大半の方が重要と回答していることから、価値観を基に転職先を選定することは、今後さらに広がりを見せるものと思われます。

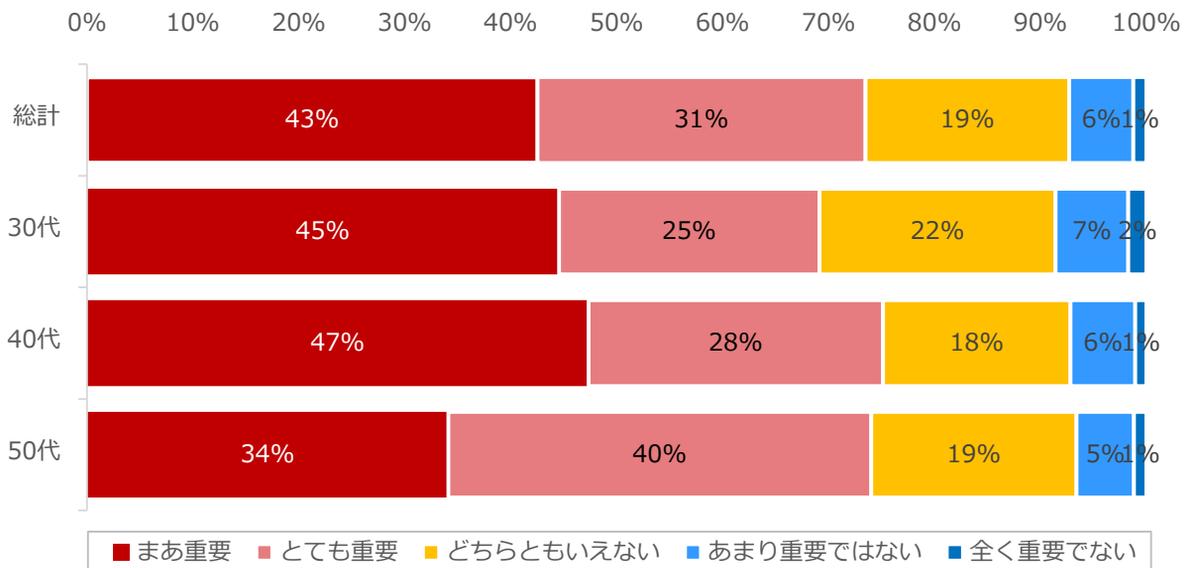
【図3】 転職先を選ぶ際、「社風・職場の雰囲気」の重要性はどれくらいですか？



【図4】 転職先を選ぶ際、「一緒に働く人の価値観」の重要性はどれくらいですか？



【図5】 転職先を選ぶ際、「企業理念」の重要性はどれくらいですか？

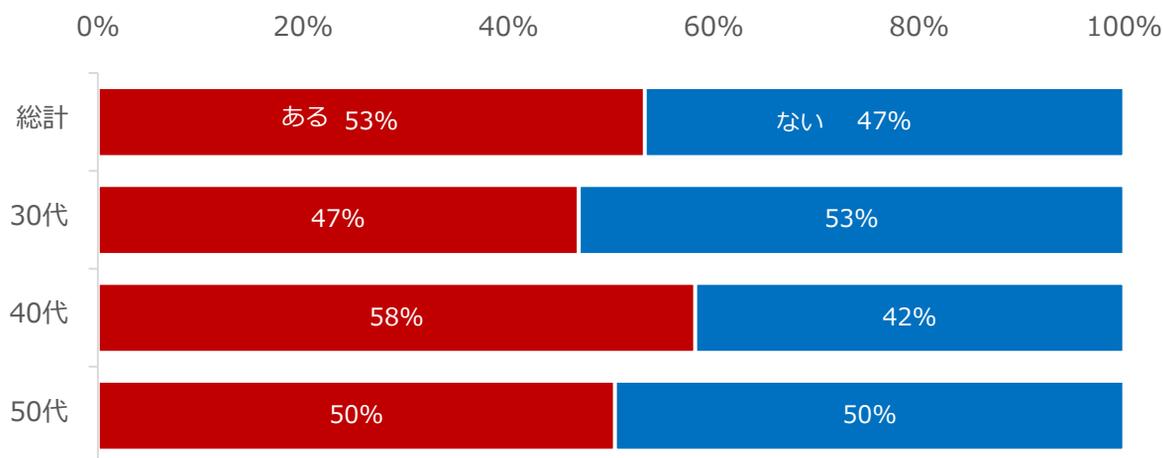


**3 : 53%の方が、仕事において同僚や上司と価値観の相違が原因で失敗経験あり。
年代があがるにつれ価値観の相違が原因のトラブルを未然に防ぐ方法として、
日常のコミュニケーションを重視。（図6、図7）**

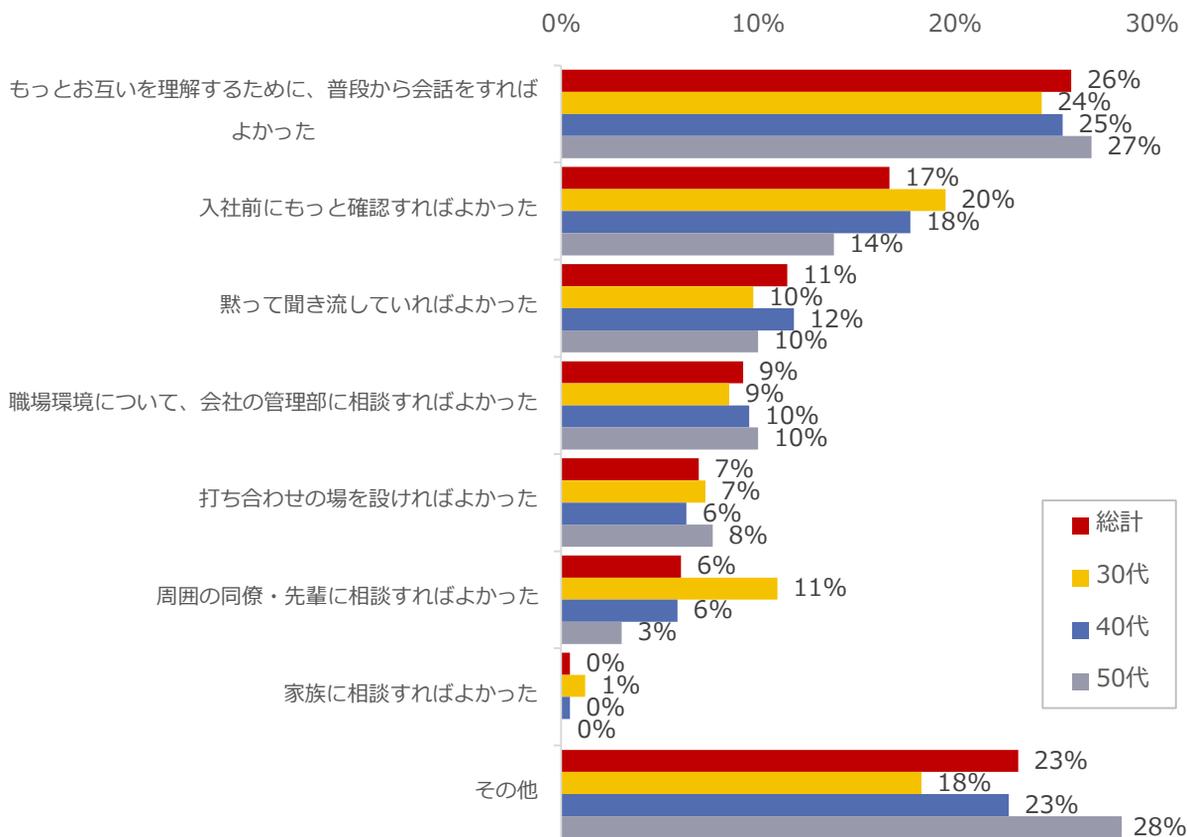
「仕事において、同僚や上司と価値観の相違が原因で失敗したことはありますか」と伺ったところ、53%の方があると回答しました。「失敗したことがある」と回答した方に、どうすればトラブルを未然に防げたか聞くと、「もっとお互いを理解するために、普段から会話をすればよかった」（26%）と回答した方が最多となり、価値観の相違によって起こるトラブルの原因は日頃のコミュニケーション不足という認識をお持ちの方が多かったです。

年代別で見ると、「もっとお互いを理解するために、普段から会話をすればよかった」（30代：24%、40代：25%、50代：27%）は、年代があがるにつれ回答した方の割合が高くなっていることから、年代を追うごとに日ごろのコミュニケーションを重視する傾向にあるようです。その他では、『価値観が違いすぎたらトラブルは防ぎようがない』『上司は選べないので未然に防げない』といった、半ばあきらめのような声が多く。また、『いろんなところに相談したが解決できず転職した』など、価値観の相違によるトラブルを回避する策をうつことの難しさを痛感しているコメントも目立ちました。

【図6】 仕事において、同僚や上司と価値観の相違が原因で失敗したことはありますか。



【図7】 仕事において、同僚や上司と価値観の相違が原因で失敗したことはありますか。



<「その他」と回答した方のコメント>

- 紹介して下さったコンサルタントにもっと相談しておけばよかった。(30代)
- 価値観が違いすぎたらトラブルは防ぎようがない。些細な差ならばコミュニケーションで解決できる可能性あり。(30代)
- 上司の気分によって左右されたので、どうすることもできなかった。(40代)
- いろんなところに相談したが解決できず、転職した。(40代)
- 上司に価値観の多様性を受け入れる視点があればよかった。それを持たせるための研修などは必要だと思う。(40代)
- 自分が上司になればよかった。(50代)
- 社風の違いは短期間でどうなるものでもない。(50代)
- 上司は選べないので未然に防ぐことは不可能。(50代)

【調査概要】

- 調査方法：インターネットによるアンケート
- 調査対象：『エン転職コンサルタント』利用者 811名
- 調査期間：2014年12月25日～2015年1月29日